

サケ科魚類の産卵床調査及び保全対策について

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

■北見河川事務所では昨年8月の出水における災害復旧工事を行うにあたり、サケ科魚類の産卵場となる環境の調査を実施し、工事の影響を最小限にするよう努めています。

常呂川では、現在24箇所で行っています。



主な災害復旧工事(河道掘削)



主な災害復旧工事(低水護岸)

産卵床調査

24箇所全ての災害復旧工事箇所において産卵期前に産卵床適地の調査を行い、工事の影響を受ける2箇所の産卵床適地については詳細な調査を実施し、必要に応じて保全対策を行っています。



産卵床調査状況

保全対策の例



大型土のう

(保全対策)

工事のために設置した大型土のうの撤去を、来春の稚魚降下後に実施することとしました。

職員の技術力向上に向けた取り組み

産卵場がどのような場所に作られやすいのか、産卵時の状況等、職員自らが理解し知識を深めることを目的に、勉強会を11月1日に行いました。



現地での産卵場確認



現場確認後の座学